

所 沢 市 平和推進事業のまとめ

令和6年度

経営企画部企画総務課

所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

目 次

広島平和記念式典参加事業	1
平和大使感想文	5
所沢市平和を語る会（語り部派遣事業）	10
平和祈念資料展	15
平和推進事業の歩み	17
広島市旧庁舎被爆敷石について	18



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム（広島平和記念公園横）

《事業概要》

所沢市では、例年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式 並びに平和祈念式（広島平和記念式典）」に、平和に対する認識を深めていただくために、市内在住中高生等の市民代表者（平和大使）とともに参加しています。

この事業は、戦後79年余りが経過する中で唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴き、被爆施設や平和記念資料館への訪問を通じて自らの目で歴史に触れるとともに式典に参加することで、原爆や戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識する機会となっています。

【期 間】 令和6年8月5日（月）～6日（火）

【参加者】 大学生2名、高校生1名、中学生2名
市議会代表2名
市職員2名

計 9名

行程

8月5日(月)

所沢市平和大使5名と市議会議員2名を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島では、原爆ドームを見学した後、平和記念公園を訪れ、市及び市議会の代表として、原爆の子の像に千羽鶴を奉納した。その後、平和記念資料館を見学し、原爆慰霊碑に生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。被爆爆心地(現：島内科)への見学も実施し、初日の行程を終えた。

- 8 : 30 所沢駅集合
- 14 : 27 広島駅到着(新幹線にて)
- 16 : 00 平和記念公園へ



8月6日(火)

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、岸田首相、国際連合事務総長などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を拝聴し、午前8時50分に閉式となった。

式典終了後、広島駅に向い帰路についた。

- 7 : 00 平和記念公園着
- 8 : 00 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 開式
- 8 : 50 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 閉式
- 12 : 18 広島駅発(新幹線にて)
- 17 : 20 所沢駅着(解散)



原爆ドーム見学



式典会場 正面入口前



式典中の様子



原爆の子の像へ折り鶴の奉納



爆心地 島内科医院

平和大使感想文

高校3年 遠藤 舞帆

私はこの1泊2日で平和に対しての意識を改めて持つことができました。

最初に原爆ドームを見学しました。周りはビルが多いのに原爆ドームを見た瞬間、79年前にタイムスリップしたような気持ちになりました。思ったよりも原爆ドームは小さかったのですがそれ以上に迫力がとてもあり、原子力爆弾の恐ろしさや怖さを一気に体感しました。

平和記念資料館では、当日着ていた服やお弁当箱・手紙などが展示されていて、今の私達と変わらない生活をしていたのに原爆で一瞬に壊されてしまう、そんなことが本当に起こってしまっているのか、ダメにきまっていると改めて実感しました。また平和記念資料館や平和式典には多くの外国人の方がいて世界中が79年前のことに目を向けていると嬉しい気持ちになりましたが、こんなに年が経ってもまだ核兵器を使用している国があったり、戦争が起こってしまっているのが今の世界の現状です。

式典の時に小学生が、「一人一人の話を聞くこと、違いを良さと捉え自分の考えを見直すこと」が平和への一歩になると話していました。私はこれに同感しました。誰にでもできることはあるので、一人一人が小さなことでも何か行動を起こしたり協力したりしていけば、世界はもっと明るい方向に進むと私は考えているので、私も今日から自分のできることを探して平和への一歩を踏みだしていきます。

今回はこのような素晴らしい事業を開催していただきありがとうございました。しっかりと学んで得たことや体験を今後の生活に活かしていきます。

今回広島に行って改めて戦争の恐ろしさについて学ぶことができました。私は広島が被爆国であるのでなんとなく行くのが怖く広島を避けていました。また、戦争のことについてもあまり学びたくありませんでした。

広島に行って最初に原爆ドームを見た時はこれが原爆ドームなんだとしか思っていないませんでした。

原爆資料館は思った以上に戦争の悲惨でした。戦争の悲惨を痛いくらいかんじることができました。

今私たちが生きる現実とは程遠い悲惨な写真でした。写真や絵だけでもあまりに悲惨だったのに実際現場はもっと恐ろしい恐怖だったと思います。私は、あまりに悲惨すぎて目を逸らしてしまいました。当時いた人々はその悲惨さに感情すらなくなってしまうのではないかと思いました。実際に80年前に起こったことだと思うととても怖いと思いました。

いつもの当たり前の日常が一瞬で壊れてしまうのは怖いと思いました。また当たり前ですが79年前私たちと同じように普通に過ごしていたのに一瞬で地獄の風景に変わってしまったことに改めて気づき、心が痛みました。突然訳もわからずいきなり灰色の煙に包まれた人々は訳もわからず苦しみながら亡くなったのだと考えるととても辛くなりました。また、被爆して生き残った方も生涯トラウマを抱えて苦しみながらがんばって生きてきたことを痛感しました。

原爆資料館を見た後、改めて原爆ドームを見た時に改めて悲惨さに気づきました。また原爆ドームを残すことは大切だと思い、これからも戦争の悲惨さを伝えるべきだと思いました。現代に生きる私たちが戦争の悲惨さを再確認する必要があると思いました。二度と戦争を起こしてはいけないと思いました。

こういった機会がなければ自分から原爆資料館に行こうと思う機会がなかったと思うのでこの事業に参加できてよかったです。2日間ありがとうございました。

「非核三原則」、「平和」という言葉の深さについて考えたことはありますか？
どちらも、広島・長崎で起こった原爆の教訓から、日本が掲げた「守るべき義務」
の言葉です。

私は今回、所沢平和大使として広島に行きました。行く前は、原爆や戦争のこ
とは教科書で習った程度の知識しかありませんでした。しかし、平和記念資料館
に入って、初めて目にした沢山の残酷な事実を知って、頭を殴られたような大き
なショックを受けました。

人影の石、溶けたお弁当箱、焼け焦げた学生…原爆がもたらした大きな被害
はそこで止まらず、放射能で蝕まれ何年もかけて原爆症で亡くなった方や、今も
苦しんでいる被爆者の方々がいると分かりました。また、すぐに亡くなってしま
った子供たちの大半が、中学1・2年生だったと知り、私とあまり年が変わらな
い年齢で驚きました。原爆が落ちた日も、見学した時と同じように、朝から暑く、
セミがうるさく鳴いていたのでしょうか。そういう普通の夏の朝、ご飯を食べて
友達と学校に行こうとした時、一瞬で、自分が溶けてなくなったり、皮膚が垂れ
下がり痛い苦しいと歩いて、水を求めて川で亡くなることを想像したら涙が出
ました。自分に起こった出来事を理解出来ないまま死んでしまうのかな、そんな
のは嫌だな、と思いました。

原爆が落とされ、とどめを刺された感じで日本は敗戦を決めたのですが、それ
までにも、沢山の軍人さんや民間人が犠牲になっていて、優劣は明らかだったと
思うのに、なぜ戦争を止めなかったのか、と思いました。命より大事なものはな
いのに。

平和祈念式典では、一番印象に残ったのは、小学6年生の平和の誓いです。
すばらしく心に響きました。広島を学ぶことが平和を学ぶこと、平和の輪を世界
に広げていくことが大切だと気付くことが出来ました。また、戦争の教訓から、
一人一人の命を大事にすると決めた、憲法9条がある日本だからこそできる、
唯一の被爆国として、紛争地域での中立、和平交渉に力を貸すべきだと思うし、
核兵器が製造されない働きかけをしていく立場にあるのではないかと思います。
この怖い戦争があったことを、私は忘れず、今回、見たこと聞いたことをみ
んなに話していこうと、平和祈念式典に出席して、自分に誓いました。

私は、広島に行って、家族の温かさを感じることができました。当たり前の日
常が続くことを心から願うことができました。14歳の私に、貴重な経験をさせ
て頂き、本当にありがとうございました。

私は今回、広島に行ったことで戦争の悲惨さを改めて痛感しました。そして過去の出来事を深く知ることで、これから自分たちの生きていく未来について改めて考えることができました。平和記念資料館では目を背けたくなるような展示が多くありました。被爆して亡くなった方の遺品や家族に宛てた手紙や遺書の展示を見て、胸が締め付けられるような気持ちになりました。亡くなった方々にも私たちと同じように、来るはずだった明日があったのだと考えれば、今、自分が戦争のない国で生きていることが当たり前ではなく、とても幸せなことなのだ改めて感じることができました。どうすれば世界中で起きている戦争がなくなり、戦いに巻き込まれ、苦しむ人のない平和な世界を目指していけるのか多くの人が考え続けることが大切だと思いました。

当時広島に暮らしていた人たちの想いに触れたことで、原爆が広島に住んでいた人たちの日常生活を一瞬にして奪ったことへの衝撃を改めて実感しました。また、心にも身体にも深い傷を抱えたまま、被爆者やその遺族はその後の人生を歩み、今も苦しみつづけている被爆者の方がいるのだと考えればとても胸が痛みます。

私は今回、広島を訪れるまで戦争は自分の住んでいる国で100年も経たない過去に起きたことなのだという事実を受け入れられない気持ちが強かったです。しかし、現在のような国際情勢が不安定な時期だからこそたくさんの人々が平和についての理解を深め、追求していくことが必要だと考えます。二度と戦争を起こさないためには、日本人一人一人が戦争の歴史を忘れずにどうすれば戦争のない社会を実現できるのかを考え続けることが大切であり、これからの社会を担っていく世代に平和の重要性を語り継いでいくことが重要なことであると感じました。

最後に広島まで引率して下さった所沢市職員の木村さん、平田さん、市議会議員のお二人には2日間お世話になりました。このような貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

今回の事業に参加させていただき大変貴重な経験をする事ができました。ありがとうございました。

原爆は爆発による熱線で広島で14万人、長崎で7万人の命を奪いました。更に長期にわたり健康被害ももたらしています。

原爆資料館や原爆ドームを訪れてみてテレビなどで知っていたことも、間近で見ることでたくさんの人達の未来を一瞬にして奪ってしまった原爆の恐ろしさを再認識し、忘れられない経験になりました。

原爆資料館でとても印象に残っている展示物は溶けたお弁当箱です。お弁当は真っ黒にこげていました。そのお弁当箱にはお米のおもかげものこっていました。その他にも絵や写真、三輪車など原爆の被害にあった方の遺品が展示されていました。展示されているものは原型をとどめていないものがほとんどで原爆の恐ろしさがつたわってきました。

広島平和記念式典は、原爆投下から79年が経過した今も、平和の尊さと核兵器の恐ろしさを後世に伝えることができる重要な行事です。テレビや教科書で見たことがあったのである程度知っているつもりで参加しましたが、この場所を感じた雰囲気、空気は忘れることのできない経験になりました。

小学6年生が力強い声で平和への誓いをしていてとても心を掴まれました。世界全体から戦争がなくなり世界全体が平和になりますようにという願いをこめて黙祷もしました。

被爆体験をされた方々は苦しい思いをしながらも戦争の悲惨さ平和の大切さを訴え続けてくださっています。そしてもっと日本で起きたことを勉強して平和や自由について考えられるようになってほしいとお話されていました。

まず戦争のことについて自分がもっと知っていくことが大切だと感じました。そして原爆被害者の方たちがしてくださっている戦争の恐ろしさを後世に伝えていく活動を必ず継続していかなければならないと強く感じました。いつか核兵器のない世界、平和の日常が当たり前になる社会が実現できたらいいなと思いました。

所沢市平和を語る会 (語り部派遣事業)

なかじま すずえ
中島 寿々江さんによる

講話の様子



すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さんによる

講話の様子

やまなか まり
山中 茉莉さんによる

講話の様子



《事業概要》

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を通じて、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

令和6年度は、平和学習の一環として小学校の児童と市職員を対象に実施しました。

【実施日】

	日程	場所	対象者	語り部
①	6月4日	清進小学校	6年生	山中 茉莉さん
②	6月6日	宮前小学校	4年生	杉本 孝一郎さん
③	6月8日	並木小学校	6年生	中島 寿々江さん
④	7月11日	明峰小学校	6年生	杉本 孝一郎さん
⑤	8月8日	所沢市役所	新規採用職員	杉本 孝一郎さん 中島 寿々江さん
⑥	12月17日	椿峰小学校	6年生	中島 寿々江さん
⑦	12月18日	北中小学校	6年生	山中 茉莉さん
⑧	1月10日	三ヶ島小学校	6年生	杉本 孝一郎さん
⑨	1月14日	北秋津小学校	6年生	中島 寿々江さん
⑩	1月15日	富岡小学校	6年生	山中 茉莉さん
⑪	1月17日	中央小学校	6年生	山中 茉莉さん
⑫	1月20日	上新井小学校	6年生	中島 寿々江さん
⑬	1月20日	伸栄小学校	6年生	杉本 孝一郎さん
⑭	1月21日	和田小学校	6年生	山中 茉莉さん
⑮	2月4日	小手指小学校	6年生	中島 寿々江さん
⑯	2月12日	北小学校	6年生	中島 寿々江さん

合計 16回開催 参加者数 1,256人

語り部紹介

なかしま すずえ 中島 寿々江さん（狭山市在住）

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母、叔母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

～中島寿々江さんからのコメント～

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さん（所沢市在住）

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

～杉本孝一郎さんからのコメント～

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから…。

やまなか まり
山中 茉莉さん (所沢市在住)

広島で2歳の時に被爆しました。自宅は爆心地から1.4km程の場所にあり、縁側で母が洗濯するのを見ていた瞬間に原爆が落ちました。被爆者であることをずっと隠してきましたが、母の死後に「逃げてはいけない」と、経験を語る活動を開始しました。

被爆者への偏見など、差別問題にも通じる視点で、戦争被害や核兵器の恐ろしさを語ります。

～山中茉莉さんからのコメント～

広島に原爆が投下された時、私は中心地から1.4kmの母の実家で被爆しました。全滅地帯となった炎の海を逃げ回り、黒い雨にも濡れ、家も財産も全てを失い、焼け跡で野宿をして過ごしました。私はこの時2歳でしたから、当時の記憶はありませんが、物心ついた頃から、一緒に逃げ回った母、伯母、祖母などから、あの日の惨禍を聞いて育ちました。それに終戦1～2年後の町のいたるところに焼け焦げた電柱や崩れかけた家などの焦土の名残があり、その景色は子供心にハッキリと覚えています。その景色に母たちの話す原爆投下の惨状を重ね合わせて、私はあの朝の悲劇を理解し記憶していったように思います。

それにつけても、親たちの「生」への覚悟です。幼かった子や孫に、できることなら隠しておきたかった残酷な現実を、ちゃんと向き合って継承してくれたという事実です。私は今、彼女たちの紡いだ命の記憶を、私自身の祈りに変えて、継承していきたいと思っています。明日を生きる若い人達に、平和の尊さを知ってほしいから、その為に戦争の愚かさ、核兵器の恐ろしさを語っておきたいと思っています。できれば、戦争も核兵器も、過去の話でなく、今、目の前にある危機として捉えて頂けたらと願っています。若い皆様のことを、自分の子供や孫のように大切に想って継承してまいりたいと思っています。

平和祈念資料展



市役所1階 展示中の様子

《概要》

市役所及びまちづくりセンターにおいて、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを啓発します。

【開催期間および場所】

令和6年8月 2日～8月15日：市役所1階市民ホール

令和6年8月16日～8月23日：小手指公民館分館

【展示内容】

《所沢市役所市民ホール》

- ・広島、長崎原爆写真パネル、関連図書

《小手指公民館分館》

- ・広島、長崎原爆資料パネル

市民の平和の想いを広島に届ける

市役所での資料展開催時には、令和元年度より市民ホールにて折り鶴を折ってもらえるコーナーを併設しています。

来庁者が平和への想いを馳せて折った折り鶴を、原爆被爆者への追悼の意及び恒久平和を祈念して、広島「原爆の子の像」に奉納しています。



奉納した千羽鶴

資料編

所沢市平和推進事業の歩み

- 昭和 59 年 2 月 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。
- 10 月 市長ら一行が広島市を表敬訪問
- 昭和 60 年 8 月 6 日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 11 月 28 日 所沢市広島原爆資料展を開催する。（中央公民館講堂）
- 11 月 30 日 市制 35 周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。
- 昭和 61 年 8 月 6 日 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 昭和 62 年 1 月 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。
- 8 月 6 日 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。
- 昭和 63 年 8 月 6 日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成元年 8 月 6 日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8 月 9 日 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 2 年 7 月 1 日 所沢市平和都市宣言制定（告示）
- 8 月 6 日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8 月 9 日 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 3 年 8 月 6 日 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 10 月 26 日 第 12 回所沢市民フェスティバルに出展する。
- 平成 9 年 11 月 13 日 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。（市庁舎）
- 平成 17 年 8 月 25 日 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。
- 平成 18 年 8 月 8 日 平和を語る会（語り部派遣事業）を開始する。
- 平成 20 年 2 月 28 日 平和市長会議に加盟する。
- 平成 21 年 8 月 6 日 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成 22 年 8 月 9 日 市長が長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 27 年 8 月 15 日 「戦後 70 年所沢市平和を語る会」開催
- 平成 27 年 10 月 7 日 平和を語る会（語り部派遣事業）の参加者が 1 万人を超える。
- 平成 30 年 3 月 語り部の方に感謝状を贈呈
- 令和元年 8 月 平和祈念資料展にて「～平和の想いを折り鶴に乗せて～」を開催。

※ 広島平和記念式典への参加については、昭和 60 年から毎年実施しております。

広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が、当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。

なお、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに…

ノーモアヒロシマ
No more Hiroshima



令和6年度 所沢市平和推進事業のまとめ

令和7年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部企画総務課

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04-2998-9046

E-mail a9046@city.tokorozawa.lg.jp